2 書名 長野県史 通史編 [第二巻] 著者名 長野県史 通史編 [第二巻] 著者名 長野県ノ編 出版社 長野県史刊行会 出版年 内容紹介 中世一第七章に善光寺詣と女人信仰あり。  3 書名 姥ざかり花の旅笠 著者名 田辺聖子/著 出版社 集英社 出版年 2001.6 内容紹介 中世・第七章に著光寺詣と女人信仰あり。  3 書名 姥ざかり花の旅笠 著者名 田辺聖子/著 出版社 年英社 出版年 2001.6 大保12年(1841)、筑前の商家のお内儀・小田宅子は53歳で伊勢・善光寺へと旅立つ。一行は女4人と従者3人。歌枕を訪ね、街道、間道を歩き、行く先々でのお買い物や芝居見物、生気躍動する江戸の女旅記録  1 書名 信州善光寺案内 著者名 善光寺事務局/監修 出版社 しなのき書房 出版年 2009.4 佐藤兄弟母供養塔寿永の戦いに源義経の身代わりとなった佐藤継信・忠信兄弟没後、文治3年(1187)10月に兄弟の母梅唇尼が参詣して、供養のために建立したと伝えられる。梅唇尼は義経が頼った藤原秀衡の妹で、文治3年の参詣は、頼朝による善光寺の再建最中で、平泉に義経討伐以前である。  2 書名 据原正昭/校注 出版社 岩波書店 出版年 2008.8 重衡東下り「遊女千手(せんじゅ)前の哀切なる参詣伝説」	<b></b>			T
ました。しかし、善光寺は、『善光寺縁起』に月蓋長者という富豪の娘如と照によぜしめ)の病気を治した話があるように女性を教う寺として知られていました。女性の書光寺信仰、女旅日記等について調べる。	トピック(テーマ)			女流の信仰物語、善光寺への女旅日記
記 小田宅子 沓掛なか子 佐藤兄弟母供養塔 平家物語 善光寺線 起 二条の善光寺参詣 起 二条の善光寺参詣 起 二条の善光寺参詣 と 大祭 著者名 上歌社 一郎 大学 一	ねらい			ました。しかし、善光寺は、『善光寺縁起』に月蓋長者という富豪の娘如是姫(にょぜひめ)の病気を治した話があるように女性を救う寺として知られていました。
古名   古光・子文明   古光・子文明   古光・子文明   五十   五十   五十   五十   五十   五十   五十   五	キーワード			記 小田宅子 沓掛なか子 佐藤兄弟母供養塔 平家物語 善光寺縁
世版年 2000.5 内容紹介 生功と玉鶴姫」等、善光寺参詣と女人信仰の話が載っている。  2 書名 長野県史 通史編 [第二巻] 著者名 長野県史綱編   出版社 長野県史刊行会   出版年 1986年   内容紹介 中世一第七章に善光寺詣と女人信仰あり。 3 書名 さかり花の旅笠   著者名   田辺聖子/著   出版社 集英社   出版年 1016   上版年 2001.6   天保12年(1841)、筑前の商家のお内儀・小田宅子は53歳で伊勢・善光寺へと旅立つ。一行は女4人と従者3人。歌枕を訪ね。街道。間道を歩き、行代先でのお買い物や芝居見物、生気躍動する江戸の女旅記録   青木寺・本子・充代先でのお買い物や芝居見物、生気躍動する江戸の女旅記録   古田版社 上位の書書房   出版社 生の書書房   出版   上近き 2009.4   佐藤兄弟母供養塔   寿永の戦いに源義経の身代わりとなった佐藤継信・忠信兄弟没後、文内容紹介 治3年(1187)10月に兄弟の母梅唇尼が参詣して、供養のために建立したと伝えられる。梅唇尼は義経が頼った藤原秀衡の妹で、文治3年の参詣は、頼朝による書大寺・の再建最中で、平泉に義経討伐以前である。		1	書名	善光寺史研究
世版年 2000.5 内容紹介 生功と玉鶴姫」等、善光寺参詣と女人信仰の話が載っている。  2 書名 長野県史 通史編 [第二巻] 著者名 長野県史綱編   出版社 長野県史刊行会   出版年 1986年   内容紹介 中世一第七章に善光寺詣と女人信仰あり。 3 書名 さかり花の旅笠   著者名   田辺聖子/著   出版社 集英社   出版年 1016   上版年 2001.6   天保12年(1841)、筑前の商家のお内儀・小田宅子は53歳で伊勢・善光寺へと旅立つ。一行は女4人と従者3人。歌枕を訪ね。街道。間道を歩き、行代先でのお買い物や芝居見物、生気躍動する江戸の女旅記録   青木寺・本子・充代先でのお買い物や芝居見物、生気躍動する江戸の女旅記録   古田版社 上位の書書房   出版社 生の書書房   出版   上近き 2009.4   佐藤兄弟母供養塔   寿永の戦いに源義経の身代わりとなった佐藤継信・忠信兄弟没後、文内容紹介 治3年(1187)10月に兄弟の母梅唇尼が参詣して、供養のために建立したと伝えられる。梅唇尼は義経が頼った藤原秀衡の妹で、文治3年の参詣は、頼朝による書大寺・の再建最中で、平泉に義経討伐以前である。			著者名	小林計一郎/著
世版年 2000.5				
内容紹介				
2			<u> </u>	2000.5
著名名 長野県 /編 出版社 長野県東刊行会 出版年 内容紹介 中世一第七章に善光寺詣と女人信仰あり。  3 書名			内容紹介	「遊女千手(せんじゅ)前の哀切なる参詣伝説」「虎御前の参詣」「熊谷蓮生坊と玉鶴姫」等、善光寺参詣と女人信仰の話が載っている。
著名名 長野県 /編 出版社 長野県東刊行会 出版年 内容紹介 中世一第七章に善光寺詣と女人信仰あり。  3 書名		2	書名	長野県史 通史編 「第二巻」
世版社 長野県史刊行会 出版年 1986年 内容紹介 中世一第七章に善光寺詣と女人信仰あり。  3 書名 姥ざかり花の旅笠 著者名 田辺聖子/著 出版年 2001.6  天保12年(1841)、筑前の商家のお内儀・小田宅子は53歳で伊勢・善光 内容紹介 寺へと旅立つ。一行は女4人と従者3人。歌枕を訪ね、街道、間道を歩き、行先々でのお買い物や芝居見物、生気躍動する江戸の女旅記録 資料リスト  1 書名 信州善光寺案内 著者名 善光寺事務局/監修 出版社 しなのき書房 出版年 2009.4  佐藤兄弟母供養塔 寿永の戦いに源義経の身代わりとなった佐藤継信・忠信兄弟没後、文治3年(1187)10月に兄弟の母梅唇尼が参詣して、供養のために建立したと伝えられる。梅唇尼は義経が頼った藤原秀衡の妹で、文治3年の参詣は、頼朝による善光寺の再建最中で、平泉に義経討伐以前である。  2 書名 平家物語(ワイド版岩波文庫) 著者名 梶原正昭/校注 出版社 岩波書店 出版年 2008.8  重衡東下り「遊女千手(せんじゆ)前の哀切なる参詣伝説」 寿永3年(1184)、平重衡(しげひら)は塩/浦の合戦で捕えられ鎌倉に送られた。手越でごし 静岡市)の長者の娘千手の前が頼朝の命で重衡の世話をした。重衡が斬られた後、千手は善光寺にはいって重衡の苦援を弔ったという。  3 書名 善光寺さん 著者名 小林計一郎/著出版社 銀河書房 出版年 1979.1 内容紹介 「虎御前の参詣」の話などが収められている。				
出版年				
内容紹介 中世一第七章に善光寺詣と女人信仰あり。   3 書名   姓ざかり花の旅笠   著者名   田辺聖子/著   出版社   集英社   出版年   2001.6   天保12年(1841)、筑前の商家のお内儀・小田宅子は53歳で伊勢・善光   寺へと旅立つ。一行は女4人と従者3人。歌枕を訪ね、街道、間道を歩き、行(先々でのお買い物や芝居見物、生気躍動する江戸の女旅記録   書名   信州善光寺案内   著者名   善光寺事務局/監修   出版社   しなのき馬   出版在   2009.4   佐藤兄弟母供養塔   寿永の戦いに源義経の身代わりとなった佐藤継信・忠信兄弟没後、文治3年(1187)10月に兄弟の母梅馬氏・後護に、任養のために建立したと伝えらんる。梅居に義経が頼った藤原秀衡の妹で、文治3年のしたと伝えらんる。梅居民は義経が頼った藤原秀衡の妹で、文治3年のよきに、頼朝による善光寺の再建最中で、平泉に義経討伐以前である。   2 書名   平家物語(ワイド版岩波文庫)   著者名   梶原正昭/校注   出版社   岩波書店   出版社   岩波書店   出版社   岩波書店   出版社   岩波書店   出版年   2008.8   重衡東下り「遊女千手(せんじゅ)前の哀切なる参詣伝説」   寿永3年(1184)、平重衡(しげひら)は壇ノ浦の合戦で捕えられ鎌倉に送   方容紹介   京が長された後、千手は善光寺にはいって重衡の菩提を弔ったという。   3 書名   番光寺さん   著者名   小林計一郎/著   出版社   銀河書房   出版社   1979.1   内容紹介 「虎御前の参詣」の話などが収められている。				
3 書名   姓ざかり花の旅笠   著者名   田辺聖子/著   出版社   集英社   出版社   集英社   出版年   2001.6   天保12年(1841)、筑前の商家のお内儀・小田宅子は53歳で伊勢・善光寺へと旅立つ。一行は女4人と従者3人。歌枕を訪ね、街道、間道を歩き、行ぐ先々でのお買い物や芝居見物、生気躍動する江戸の女旅記録   書名   善著名   善差光寺事務局/監修   出版社   しなのき書房   出版年   2009.4   佐藤兄弟母供養塔寿みの戦いに源義経の身代わりとなった佐藤継信・忠信兄弟没後、文治3年(1187)10月に兄弟の母梅唇尼が参詣して、供養のために建立したと伝えられる。梅唇尼は義経が頼った藤原秀衡の妹で、文治3年の参詣は、頼朝による善光寺の再建最中で、平泉に義経討伐以前である。   2 書名   平家物語(ワイド版岩波文庫)   著者名   梶原正昭/校注   出版年   2008.8   重衡東下り「遊女千手(せんじゅ)前の哀切なる参詣伝説」寿永3年(1184)、平重衡(しげひら)は塩ノ浦の合戦で捕えられ鎌倉に送られた。手越(てごし 静岡市)の長者の娘干手の前が頼朝の命で重衡の世話をした。重衡が斬られた後、干手は善光寺にはいって重衡の菩提を弔ったという。   3 書名   善光寺さん   著者名   小林計一郎/著   出版社   銀河書房   出版社   1979.1   内容紹介「虎御前の参詣」の話などが収められている。				
著者名 田辺聖子/著 出版社 集英社 出版年 2001.6   大保12年(1841)、筑前の商家のお内儀・小田宅子は53歳で伊勢・善光 内容紹介		_		
出版社 集英社   出版年   2001.6		3		
出版年   2001.6				
大保12年(1841)、筑前の商家のお内儀・小田宅子は53歳で伊勢・善光寺へと旅立つ。一行は女4人と従者3人。歌枕を訪ね、街道、間道を歩き、行く先々でのお買い物や芝居見物、生気躍動する江戸の女旅記録				
内容紹介   寺へと旅立つ。一行は女4人と従者3人。歌枕を訪ね、街道、間道を歩き、行く先々でのお買い物や芝居見物、生気躍動する江戸の女旅記録   書名   信州善光寺案内   著者名   善光寺事務局/監修   出版年   2009.4   佐藤兄弟母供養塔寿永の戦いに源義経の身代わりとなった佐藤継信・忠信兄弟没後、文治3年(1187)10月に兄弟の母梅唇尼が参詣して、供養のために建立したと伝えられる。梅唇尼は義経が頼った藤原秀衡の妹で、文治3年の参詣は、頼朝による善光寺の再建最中で、平泉に義経討伐以前である。   2 書名   平家物語(ワイド版岩波文庫)   著者名   梶原正昭/校注   出版社   岩波書店   出版年   2008.8   重衡東下り「遊女千手(せんじゅ)前の哀切なる参詣伝説」寿永3年(1184)、平重衡(しげひら)は壇ノ浦の合戦で捕えられ鎌倉に送られた。手越(てごし 静岡市)の長者の娘千手の前が頼朝の命で重衡の世話をした。重衡が斬られた後、千手は善光寺にはいって重衡の苦提を弔ったという。   3 書名   善光寺さん   著者名   小林計一郎/著   出版社   銀河書房   出版年   1979.1   内容紹介「虎御前の参詣」の話などが収められている。			出版年	2001.6
著者名   善光寺事務局/監修   出版社			内容紹介	寺へと旅立つ。一行は女4人と従者3人。歌枕を訪ね、街道、間道を歩
著者名   善光寺事務局/監修   出版社	資料リスト	1	書名	信州善光寺案内
出版社   しなのき書房				
出版年 2009.4  佐藤兄弟母供養塔 寿永の戦いに源義経の身代わりとなった佐藤継信・忠信兄弟没後、文 内容紹介 治3年(1187)10月に兄弟の母梅唇尼が参詣して、供養のために建立したと伝えられる。梅唇尼は義経が頼った藤原秀衡の妹で、文治3年の参詣は、頼朝による善光寺の再建最中で、平泉に義経討伐以前である。  2 書名 平家物語(ワイド版岩波文庫) 著者名 梶原正昭/校注 出版社 岩波書店 出版年 2008.8  重衡東下り「遊女千手(せんじゅ)前の哀切なる参詣伝説」 寿永3年(1184)、平重衡(しげひら)は壇ノ浦の合戦で捕えられ鎌倉に送られた。手越(てごし 静岡市)の長者の娘千手の前が頼朝の命で重衡の世話をした。重衡が斬られた後、千手は善光寺にはいって重衡の菩提を弔ったという。  3 書名 善光寺さん 著者名 小林計一郎/著 出版社 銀河書房 出版社 1979.1 内容紹介「虎御前の参詣」の話などが収められている。		2		
佐藤兄弟母供養塔 寿永の戦いに源義経の身代わりとなった佐藤継信・忠信兄弟没後、文 治3年(1187)10月に兄弟の母梅唇尼が参詣して、供養のために建立し たと伝えられる。梅唇尼は義経が頼った藤原秀衡の妹で、文治3年の参 詣は、頼朝による善光寺の再建最中で、平泉に義経討伐以前である。 2 書名 平家物語(ワイド版岩波文庫) 著者名 梶原正昭/校注 出版社 岩波書店 出版年 2008.8 重衡東下り「遊女千手(せんじゅ)前の哀切なる参詣伝説」 寿永3年(1184)、平重衡(しげひら)は壇ノ浦の合戦で捕えられ鎌倉に送 られた。手越(てごし 静岡市)の長者の娘千手の前が頼朝の命で重衡 の世話をした。重衡が斬られた後、千手は善光寺にはいって重衡の苦 提を弔ったという。 3 書名 善光寺さん 著者名 小林計一郎/著 出版社 銀河書房 出版年 1979.1 内容紹介「虎御前の参詣」の話などが収められている。				
内容紹介寿永の戦いに源義経の身代わりとなった佐藤継信・忠信兄弟没後、文治3年(1187)10月に兄弟の母梅唇尼が参詣して、供養のために建立したと伝えられる。梅唇尼は義経が頼った藤原秀衡の妹で、文治3年の参詣は、頼朝による善光寺の再建最中で、平泉に義経討伐以前である。2 書名平家物語(ワイド版岩波文庫)著者名梶原正昭/校注 出版社 岩波書店 出版年 2008.8出版年 2008.8重衡東下り「遊女千手(せんじゆ)前の哀切なる参詣伝説」寿永3年(1184)、平重衡(しげひら)は壇ノ浦の合戦で捕えられ鎌倉に送られた。手越(てごし 静岡市)の長者の娘千手の前が頼朝の命で重衡の世話をした。重衡が斬られた後、千手は善光寺にはいって重衡の菩提を弔ったという。3 書名善光寺さん 著者名 小林計一郎/著 出版社 銀河書房 出版年 1979.1 内容紹介「虎御前の参詣」の話などが収められている。			山瓜牛	2003.4
著者名 梶原正昭/校注 出版社 岩波書店 出版年 2008.8  重衡東下り「遊女千手(せんじゅ)前の哀切なる参詣伝説」 寿永3年(1184)、平重衡(しげひら)は壇ノ浦の合戦で捕えられ鎌倉に送 内容紹介 られた。手越(てごし 静岡市)の長者の娘千手の前が頼朝の命で重衡 の世話をした。重衡が斬られた後、千手は善光寺にはいって重衡の菩 提を弔ったという。  3 書名 善光寺さん 著者名 小林計一郎/著 出版社 銀河書房 出版年 1979.1 内容紹介「虎御前の参詣」の話などが収められている。			内容紹介	寿永の戦いに源義経の身代わりとなった佐藤継信・忠信兄弟没後、文 治3年(1187)10月に兄弟の母梅唇尼が参詣して、供養のために建立し たと伝えられる。梅唇尼は義経が頼った藤原秀衡の妹で、文治3年の参
著者名 梶原正昭/校注 出版社 岩波書店 出版年 2008.8  重衡東下り「遊女千手(せんじゅ)前の哀切なる参詣伝説」 寿永3年(1184)、平重衡(しげひら)は壇ノ浦の合戦で捕えられ鎌倉に送 内容紹介 られた。手越(てごし 静岡市)の長者の娘千手の前が頼朝の命で重衡 の世話をした。重衡が斬られた後、千手は善光寺にはいって重衡の菩 提を弔ったという。  3 書名 善光寺さん 著者名 小林計一郎/著 出版社 銀河書房 出版年 1979.1 内容紹介「虎御前の参詣」の話などが収められている。			<b>建</b> 夕	   亚家物語(ワイド版岩波文庫)
出版社 岩波書店 出版年 2008.8  重衡東下り「遊女千手(せんじゅ)前の哀切なる参詣伝説」 寿永3年(1184)、平重衡(しげひら)は壇ノ浦の合戦で捕えられ鎌倉に送 内容紹介 られた。手越(てごし 静岡市)の長者の娘千手の前が頼朝の命で重衡 の世話をした。重衡が斬られた後、千手は善光寺にはいって重衡の菩 提を弔ったという。  3 書名 善光寺さん 著者名 小林計一郎/著 出版社 銀河書房 出版年 1979.1 内容紹介 「虎御前の参詣」の話などが収められている。		_		The transport of the tr
出版年   2008.8   重衡東下り「遊女千手(せんじゅ)前の哀切なる参詣伝説」				
重衡東下り「遊女千手(せんじゅ)前の哀切なる参詣伝説」 寿永3年(1184)、平重衡(しげひら)は壇ノ浦の合戦で捕えられ鎌倉に送 内容紹介 られた。手越(てごし 静岡市)の長者の娘千手の前が頼朝の命で重衡 の世話をした。重衡が斬られた後、千手は善光寺にはいって重衡の菩 提を弔ったという。  3 書名 善光寺さん 著者名 小林計一郎/著 出版社 銀河書房 出版年 1979.1 内容紹介 「虎御前の参詣」の話などが収められている。				1
寿永3年(1184)、平重衡(しげひら)は壇ノ浦の合戦で捕えられ鎌倉に送 内容紹介 られた。手越(てごし 静岡市)の長者の娘千手の前が頼朝の命で重衡 の世話をした。重衡が斬られた後、千手は善光寺にはいって重衡の菩 提を弔ったという。  3 書名 善光寺さん 著者名 小林計一郎/著 出版社 銀河書房 出版年 1979.1 内容紹介 「虎御前の参詣」の話などが収められている。			<u> </u>	<u> </u>
著者名 小林計一郎/著 出版社 銀河書房 出版年 1979.1 内容紹介 「虎御前の参詣」の話などが収められている。			内容紹介	寿永3年(1184)、平重衡(しげひら)は壇ノ浦の合戦で捕えられ鎌倉に送られた。手越(てごし 静岡市)の長者の娘千手の前が頼朝の命で重衡の世話をした。重衡が斬られた後、千手は善光寺にはいって重衡の菩
著者名 小林計一郎/著 出版社 銀河書房 出版年 1979.1 内容紹介 「虎御前の参詣」の話などが収められている。		3	<b>書</b> 名	
出版社 銀河書房 出版年 1979.1 内容紹介 「虎御前の参詣」の話などが収められている。		٦		
出版年 1979.1 内容紹介 「虎御前の参詣」の話などが収められている。				
内容紹介 「虎御前の参詣」の話などが収められている。				
4				
		4	書名	江尸時代女流又去史 旅日記編(笠間叢書)

	i		
		著者名	前田淑/著
		出版社	笠間書院
		出版年	1998年
		内容紹介	「沓掛なか子と『東路の日記』(福岡女学院短期大学紀要)20、1984年」
	5	書名	福岡女子大学附属図書館蔵 東路日記
		著者名	小田宅子/著 井上敏幸[ほか]翻刻・解題
		出版社	
		出版年	奥付嘉永4年5月13日78翁藤原常足
		内容紹介	筑紫、今の福岡県中間市の商店小松屋の宅刀自(いえとじ)・女主人の 小田宅子が、親友桑原久子ら女性4名(従者の男性3名も加え一行7名) と連れ立って伊勢参り、善光寺参詣、日光・江戸見物などの旅行の体 験・記録をまとめたものです。天保12年(1841)1月16日から6月13日ま で、道程800里を超える旅日記
	6	書名	女房たちの善光寺詣り:江戸時代信州の町と村と祈りのかたち
		著者名	田中薫/著
		出版社	一草舎
		出版年	2009.5
		内容紹介	江戸時代の善光寺参詣の様子を史料や女手形に基づき紹介する。
雑誌	1	論題名	善光寺と女性参詣―長野市箱清水―
		著者名	小林計一郎
		雑誌名	社会と伝承
		巻号頁数	6巻3号
	2	論題名	善光寺縁起と女性
		著者名	小林一郎
		雑誌名	長野
		巻号頁数	第50号
	3	論題名	二条の善光寺参詣について
	3	著者名	小林計一郎
		雑誌名	長野
		<u> </u>	<del>                                    </del>
		<u> </u>	
	4	論題名	近世二女性の参詣記・・・諸九尼の「秋風の記」と小田宅子の「東路日 記」
		著者名	小林計一郎
		雑誌名	長野
		巻号頁数	第213号
	5	論題名	二条の善光寺参詣について
		著者名	小口倫司
		雑誌名	駒沢国文
			3号
インターネット情報	1	サイト名	信州地域史料アーカイブ
		URL	https://adeac.jp/shinshu-chiiki/
	2	サイト名	<u> 善</u> 光寺公式サイト
		URL	音ルサムスサイト http://www.zenkoji.jp/
	2		
	3	サイト名	国立国会図書館サーチ
		URL	http://iss.ndl.go.jp/